

生分解性マルチを利用した栽培試験

福島県たばこ試験場
平成13年度成績概要

1 部門名

特用作物—タバコ—その他
分類コード 06-01-99000000

2 担当者

吉岡邦雄

3 要旨

生分解性マルチ5種類について葉たばこ栽培における適応性を検討した。

- (1) 生分解性マルチは、化学合成系としてポリカプロラクトン系2種類、ポリエステルカーボネート系2種類、天然高分子系としてデンプン系1種類の計5種類を供試した。
- (2) 生分解性マルチの地温は種類間のばらつきはあるものの、透明ポリエチレンフィルムの地温に比べ、曇雨天時はやや低く経過し、晴天時はほぼ同じだった。
- (3) 生分解性マルチの初期生育は5種類とも透明ポリエチレンフィルムに比べは差はなかったが、開花時はデンプン系マルチの生育が他の種類に比べやや小柄だった。
- (4) ポリエステルカーボネート系2種類は、植穴の裂けが放射状に広がりやすく、6月下旬には、劣化により裂けた部分が畦中央部に多く見られた。ユニグリーンS(ポリカプロラクトン系)は、劣化による裂けは見られず、6月中旬以降地際の分解が進んだが、6月上旬から地際に土を寄せる作業により分解部分を覆土すれば実用上問題はないと考えられた。セルグリーン長期グレード(ポリカプロラクトン系)は7月上旬まで分解や劣化による裂けは見られなかった。デンプン系マルチは7月上旬には劣化により裂けた部分が僅かに見られた。
- (5) ポリエステルカーボネート系2種類とデンプン系マルチの収量は透明ポリエチレンフィルムに比べ少なかったが、品質はやや良かった。ポリカプロラクトン系2種類の収量・品質は透明ポリエチレンフィルムとほぼ同じだった。
- (6) 7月上旬まで分解や劣化がなく、収量・品質が透明ポリエチレンフィルムと同等だったポリカプロラクトン系の1種類については、葉たばこ栽培で使用可能と考えられた。

4 その他の資料等

なし